

8. Sesame Street Viewers as Adolescents: The Recontact Study

Huston, H. C. et al. (U of Texas, Austin)

担当：三輪 勉(tsmiwa@fides.dti.ne.jp)

概要

セサミの視聴効果について 80 年代に行われた調査を参考にし、同じサンプルを利用し、彼らが高校生になったとき再度、視聴効果を検証する目的で実施した調査結果の報告。結論から言えば、直接的な因果関係は見つからなかったが、非常に興味深い傾向を見て取れたという報告が中心。

「1980 年代の視聴効果（影響）に関する仮説」

・ *Early Learning Model*

教育用メディアを長期にわたって使うことにより、Early Learning Model では3つの早期発達と関連性がある

- * 特に読むことや言語といった学力の基本となる要素の発展
- * 興味、関心や動機の発展
- * 思いやり、集中、攻撃性の少ない、落ち着き、散漫性の減少といった行動様式

・ *Aggression and Social Competence*

Huesmann and Eron (1986)によれば、長期的に見れば aggressive behavior (好戦的な振る舞い)というものは良くない影響を与える。これらは教師や友人を軽視したり、言うことを聞かない傾向にある。

・ *Rapid Pace and Other Formal Features*

セサミストリートを批判的に捉えている1つの考え方。番組の質が速すぎ、娯楽性に富んでいるゆえに、子供たちが見かけだけの情報アクセスしかできていない。それゆえ、成長して授業でより深い学習内容に達したときなど、子供の頃より深く、巧みに情報を扱っていないので、創造性やより深く考えることに対して良くない影響を与える (Greenfield, 1984; Singer, 1980; Singer & Singer, 1981)。

・ *Interference With Language*

セサミのような番組は映像に頼るゆえ、役立つどころか逆に言語形成に害がある。ただ、この仮説を実証するようなデータは今のところないが、子供たちのボキャブラリーや言語形成能力とテレビの視聴に関連があるようなデータは存在する (Huston & Wright, 1997)。また、テレビが具体的なイメージを表示するため、イマジネーションや創造性を軽減する恐れがある。

・ *Do Some Groups Benefit or Lose From Exposure More Than Others Do?*

セサミストリートは、とりわけ低所得者層の家庭に価値がある。これは、低所得者層の子供たちはなかなか基本的なスキルを就学前に身につけることができないため。

Recontact Study

目的：早期のテレビ視聴と高校での学力、モチベーション、創造性や態度との因果関係

ベース：1985年にSpringfield, MAとTopeka, KSで行った調査

(ただ互いに整合性はとれていない)

対象及び方法：99人の子供たちのテレビ視聴の様子を10日間ビデオで録画(1985年)

655人に電話及び面接法(1994年)及び高校の公式の成績表

(ちなみに、週あたり約2.2時間テレビを見ており、セサミを見ていない子は16%だけ)

結果：

Academic Achievement

調査は全生徒が履修している高校の英語、数学、科学の成績(GPA)と上記のカテゴリで行った。5歳の頃にセサミをよく見ていた子は、すべての科目で平均スコアが良かっただけでなく、各科目においても良かった。(週30分以下見ていた子の平均GPAは2.51。週3.25時間以上見ていた子の平均GPAは2.90。)また、視聴時間が少ない場合、男子よりも女子の方がGPAは高かったが、視聴時間が多い場合の差は現れなかった。なお、収入の差による違いは、今回は検出できなかった。

Leisure Reading

セサミを見ると、読書時間が減るという批判がある。ところが実際に調査をしてみると、それとはまったく反対の結果が出ている。Q1で6.73時間、Q4で10.81時間/週である。

Achievement Motivation

テレビの視聴と学習との直接の因果関係は現在のところ証明されていない。そこで、我々は学習の到達度に対するモチベーションに焦点を絞って、この問題を解決しようと考えた。英語、数学、科学の各教科において“どれくらいあなたはこの科目(応用科目)ができますか?”といった自らの能力に対する信念を調べてみた。その結果、セサミをよく見ている子では、すべての科目において自らの能力を高く信じる傾向があることがわかった。ただ、生徒の信念というのは学校の成績がよいなど、学校での経験だけに基いている。一方で、男の子だけの特徴として、数学や科学のコースにおいてテレビ視聴による良い効果があったり、数学や科学のコースを取っていた子でセサミをよく見ていると、数学や科学の応用コースを取る傾向がある。

Creativity

一般的にセサミなどテレビ番組を視聴すると、創造性やイマジネーションが減退すると言われているが、そういう証拠はない。

Aggressive Tendencies

言語的な攻撃性、興奮、あるいは肉体的な攻撃性という傾向(Aggressive Tendencies)を面接法にて調べたが、セサミを見ている男の子では、あまり見ていない子に比べ、攻撃的な傾向を示す数値が低かった。